

3月31日に、小学館新書から『文系人間のための「AI」論』（高橋透・著、小学館新書）が刊行されます。

著者の高橋透氏は早稲田大学文化構想学部教授で、専門はドイツ哲学。つまり、まったくの文系なので、AIのような最先端のテクノロジーの本を書くのはおかしいと思う人が大半でしょう。しかし、これはまったくおかしい話ではありません。

なぜなら、今後、人間が人間の脳がコンピュータに繋がるようになり、『攻殻機動隊』のような世界が現実化したとき、問われるのが「人間とはなにか？」ということだからです。「AIとはなにか？」ではなく、「人間とはなにか？」なのです。

そのため、彼はいま、大学で「テクノロジーの哲学」に関する講座を持っています。この講座はもう10年近く続き、学生たちの評判は上々です。

鎌倉在住の高橋教授と何度か飲みながら、本書の執筆を勧め、ほぼ1年がかりでやっと完成しました。校了まで、修正に次ぐ修正。何度手直したか。担当は、小学館のライフスタイル局のインディ藤田氏。彼には、本当にお世話になりました。

アマゾン→ <https://www.amazon.co.jp/o/ASIN/4098253003/hnzk-22>

